

本学英語教育体系化に向けて

英米学科 宮浦 国江

平成 26 年度は、本学の英語学習/教育環境の充実が際だった年であった。一つには、グローバル人材育成推進事業が 2 年目の活動に入り、iCoToBa (多言語学習支援センター)はすっかり本学の見慣れた景色としてとけ込み、外国語学部の学生の姿がいつも見られるようになった。そして、教養英語教育については、教養教育センター所属のネイティブ教員 4 名が加わり、教養英語におけるネイティブ教員担当率は、前年の 4 倍強となった。数量的変化だけでなく、質的な変化ももたらされた。

今年、教養教育センターに所属するネイティブ教員 4 名が、教養英語の全時間枠でクラスを担当し、学生の状況、授業運営、課外学習などについて情報共有、意見交換が日常的に行われるようになった。4 名が英語教育のプロとして、優れた教育技術と親身な指導で、学生の主体的な学びを促し、まさにチームとして本学の英語教育を推進している。また教養教育センター長及びセンター長補佐(教養英語担当)が彼らと定期的にミーティングをもつことにより、教養教育センターとして、教養英語の授業状況や学生の英語学習状況の把握や、今後の方策を検討する場ができ、その中から多読を取り入れた意欲的な取り組みが試行され、体系化に向かう準備が整っていった。

以下、今年度の状況を概観し、今後の展望を述べる。

I. カリキュラム内

(1) 平成 26 年度より、新・教養教育カリキュラムがスタートした。英語に関しては、上記で触れたとおり、ネイティブ教員担当率が飛躍的に上昇した。

	全学/教養英語クラス数(「英語 I」「英語 II」「英語 III」)	うち、ネイティブ教員担当クラス数	ネイティブ教員担当率
平成 25 年度	146	22	15%
平成 26 年度	156	95	61%

※ネイティブ教員(英米学科所属外国人教員、非常勤講師、新規採用ネイティブ教員)

学生の授業アンケートからも、英語学習への意欲の向上、リスニング力やスピーキング力向上を感じている学生が増えたことが伺えた。

また、今年度からの教養科目では、英語で行う教養科目として、従来の「英語連続セミナー」に加え、「Japan Seen from Outside」という科目が始まった。この科目では、留学生も加わって毎回様々なテーマについて熱心にディスカッションがなされた。

(2) CASEC による英語統一テストは、例年通り実施された。4 月 4 日(金)に新入生全員受験、1 月 7 日(水)、14 日(水)に 2 年生、1 年生が受験した。昨度より「英語 IB」「英語 IIB」の成績評価における CASEC 評点の割合は、30%となっている。

本稿末尾に、今年度開示した平成 25 年度 1 月期、26 年度 4 月期の統一テストの結果を載せる。

(3) 「グローバルな視野とコミュニケーションのための英語連続セミナー」は 8 年目となった。今

年度から、教養教育時間枠での実施となり、後期月曜 4 限に開講された。履修登録者が 100 余名であった。プログラムは以下の通りで、多様な分野からゲストスピーカーを迎えた。昨年度のアンケートでネイティブだけでなく、日本人スピーカーの話を聞きたい、という声があったので、今年度は、意識して様々な分野の日本人スピーカーをお願いした。全体を見ても、ホテル、音楽、健康スポーツ、英語落語、国際会議担当県職員、名古屋港管理組合など、初の分野が多かった。

	Date	Lecturer	Title of the Talk
1	10/6	Coordinators	Introduction
2	10/13 (12/24)	太田光春 (文部科学省視学官)	In Order to Foster a Zest for Life among Students: Help Students Become Autonomous Learners
3	10/20	服部紀子 (English Factory 代表)	What if I Don't Speak English?
4	10/27	Matt Fraser (在名古屋カナダ領事館・領事兼通商代表)	Canada and Japan: Partners Across the Pacific
5	11/3	山本良一 (関西大学高等部)	English Lessons Based on the Integration of the Four Skills
6	11/10	Brian Cullen (名古屋工業大学准教授)	Music from the Emerald Isle---Ireland
7	11/17	Stephen G. Kovacsics (在名古屋米国領事館首席領事)	U.S.-Japan Relations
8	11/24	Christian Otchia (名古屋大学大学院生)	Smartphone Apps for Improving Your English Skills
9	12/1	三津田順子 (名古屋港管理組合港営部誘致推進課)	Working for the Port of Nagoya: A Perspective on Life after Graduating from APU
10	12/8	望月理絵 (京王プラザホテル)	Welcome to Our World of OMOTENASHI
11	12/15	喜餅 (英語落語家)	English RAKUGO Brings Me to Life
12	12/22	Gregory Affolter (LNS Yoshida, Synergy manager)	Living and Working in a Multicultural Environment
13	1/5	川 義満 (愛知県環境部環境政策課)	See the World through Large-scale International Conferences: COP10 and ESD
14	1/19	今井美香 (プライマリーケア シス代表・ヘルスケアコンサルタント)	Phuket Marathon Ambassador Speaks on a Natural Active Life
15	1/26	Coordinators	Discussion

今年度は 10 月 6 日、13 日と最初の 2 週間連続で台風のため休校となってしまった。ゲストスピーカーに依頼している関係上、予定をずらすわけにいかず、Introduction については、配付

予定の資料を学務課で配付し、実質初回となった授業の冒頭で、重要事項の伝達を行った。10月13日に予定していた太田光春先生には、補講日の12月24日にご講演頂いた。

今年度も、毎回学生からの積極的な質問が相次ぎ、トークが比較的短時間で終わったある回では、英語での質疑応答が60分近く続いた。エッセイにも真摯な聴講態度が反映されており、深く受けとめている様子が窺えた。今回のゲスト陣のうち、3名が本学卒業生であった。様々な分野からの人選と相まって、本セミナーはキャリア教育としても機能している。

II. カリキュラム外

(1) 図書館の多読用図書コーナーの充実

従来からの何人かの先生に加え、教養英語担当ネイティブ教員が多読を積極的に授業に取り入れ、学生たちに読書を促している。学術研究情報センターからの報告によれば、現在、図書館の洋書貸出冊数の95%は多読用図書である。また、利用率が高いので多読用図書の傷みも激しく、買換も必要とのことであった。

(2) CASEC 自主受験

教養英語担当の先生方の協力や、グローバル人材育成推進事業の影響もあり、CASEC 自主受験数が増加している。

また、今年度CASEC + Reading テストについて検討を行った。教養教育センター、関連学科の教員計9名で試験的に受験し、英語統一テストへの導入の可能性を検討した。良問が多いが、全体を通すと試験時間も伸び、学生への負担も大きいことから、今後自主受験時に従来の4セクションに加えて、Reading の受験も勧めることとした。

(3) レシテーションコンテストの実施(本所報の当該報告参照)

(4) グローバル人材育成推進事業では、e-Learning、iCoToBaでのクラス開講、TOEIC 受験など精力的に外国語力の強化に取り組んでいる。(詳細はグローバル人材育成推進プログラムの報告書参照)

III. 今後の展望

昨年度の活動報告に記した通り、平成29年度以降を見据えれば、グローバル人材育成推進事業による外国語学部生を主対象としたさまざまな取組と、教養教育センターによる全学部学生を対象にした英語教育の体系化を連携させ、貴重なリソースを活かしつつ iCoToBa を本学の外国語学習支援の基地として機能させることが何より重要であろう。その布石という意味あいも込め、教養英語担当教員のオフィスアワー分として、iCoToBa で週に90分(45分×2回)英語学習支援の時間をもってもらった。学生目線で考えれば、外国語の力をもっと付けたいと思ったら、授業にしっかり取り組むことと、iCoToBa に出向く、というシンプルな形が良い。それぞれの持ち場で、学生の英語力を高める取組を続けていきたい。教養教育センターでは、学生がパソコン、タブレット型 PC、スマートフォンでも多読用図書が読めるバーチャル図書館の利用と、全学生に多読用図書の2年生終了時までの到達目標を設定して英語授業にも様々な形で取り込むような体系化の一つの柱について検討し、計画を立案した。試行期間を経て、本格実施が実現すれば、本学に入学した学生は、教養英語を履修する2年間で多読用図書を8万語から24万語を読むことになる。もちろんオーディオブックの活用も可能であり、リスニング力向上にも期待できる。授業でも読んだ本の内容について英語でディスカッションしたり、

推薦図書プレゼンテーションを行うなどの展開も今後検討されよう。これまで進めてきたことの土台の上に、今、本学の英語教育が体系化に向かう時期を迎えた。

資料 1: 平成 26 年 1 月 1 年生英語統一テスト 結果

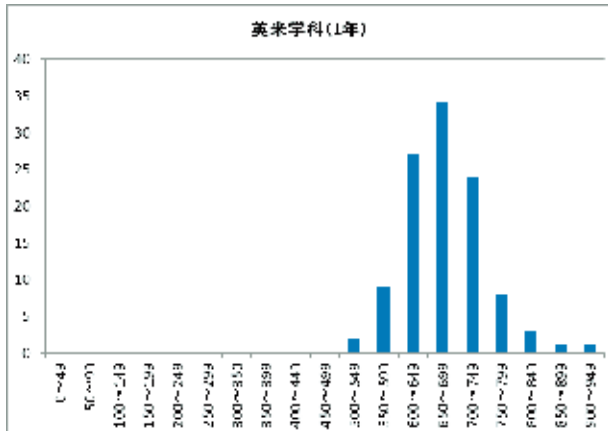
資料 2: 平成 26 年 1 月 2 年生英語統一テスト 結果

資料 3: 平成 26 年 4 月 1 年生英語統一テスト 結果

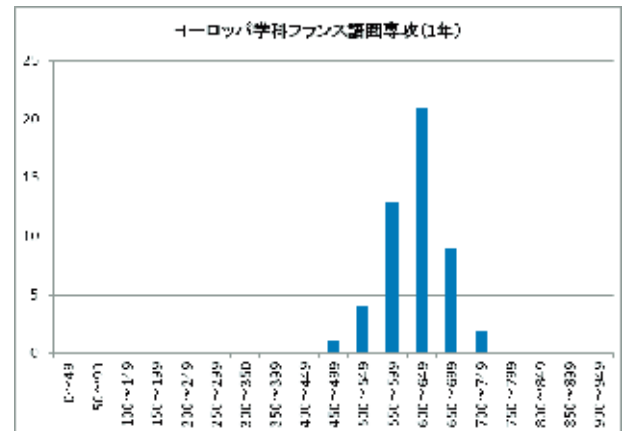
[資料1] 平成26年1月1年生英語統一テスト 結果

■愛知県立大学 2014年1月実施(1年生)

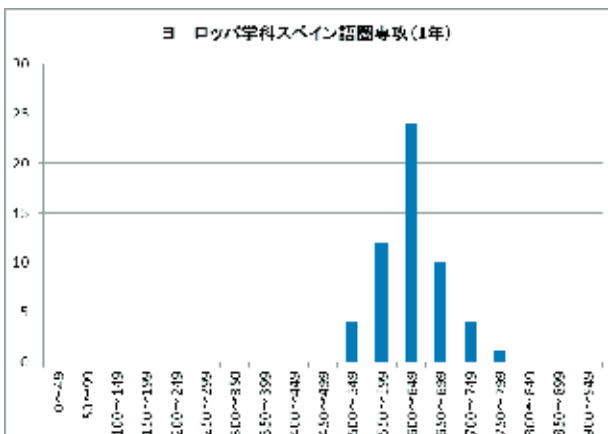
受験対象者	英米学科
学年	1年
受験者総数	109名
平均点	678.4点
最高点	910点



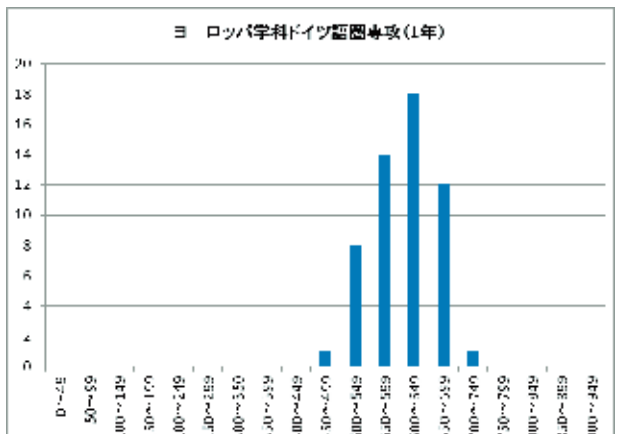
受験対象者	ヨーロッパ学科フランス語圏専攻
学年	1年
受験者総数	50名
平均点	613.7点
最高点	707点



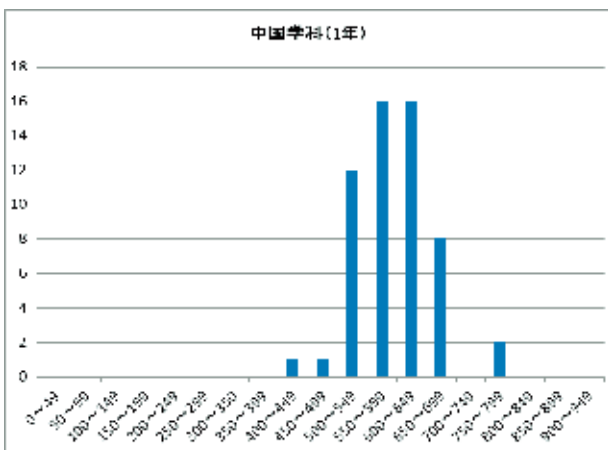
受験対象者	ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻
学年	1年
受験者総数	55名
平均点	627.1点
最高点	761点



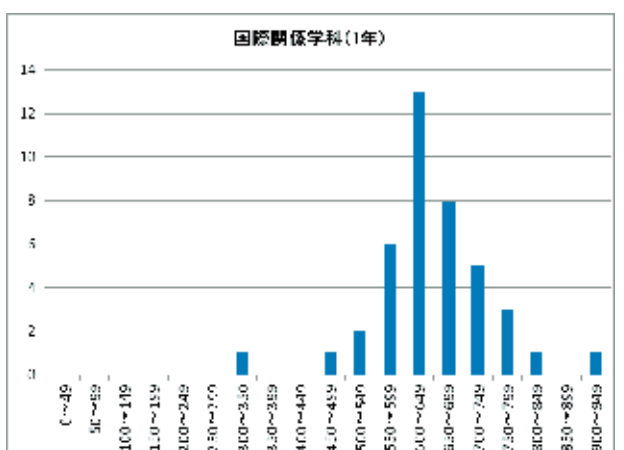
受験対象者	ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻
学年	1年
受験者総数	54名
平均点	604.9点
最高点	709点



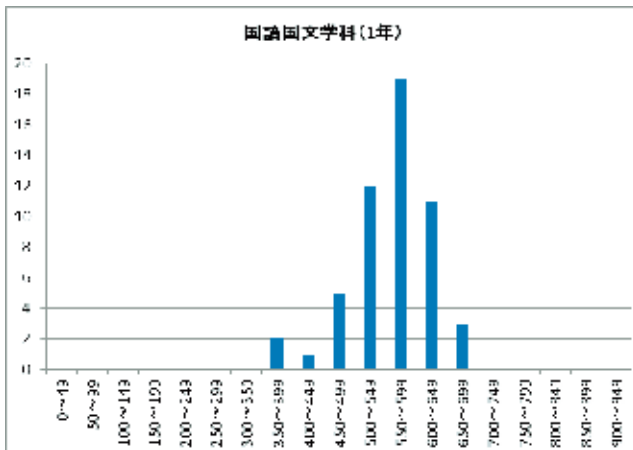
受験対象者	中国学科
学年	1年
受験者総数	56名
平均点	596.3点
最高点	776点



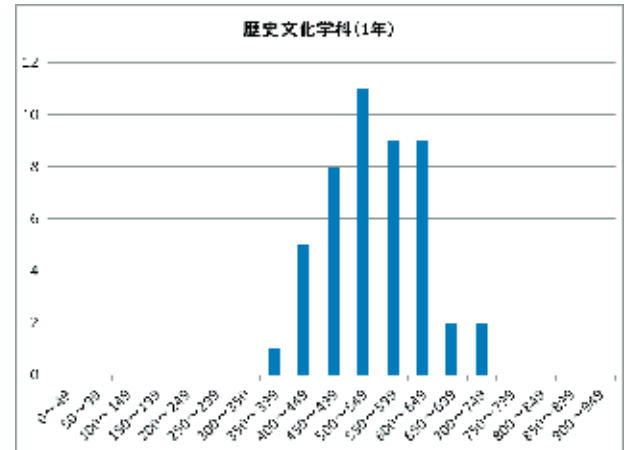
受験対象者	国際関係学科
学年	1年
受験者総数	41名
平均点	649.9点
最高点	932点



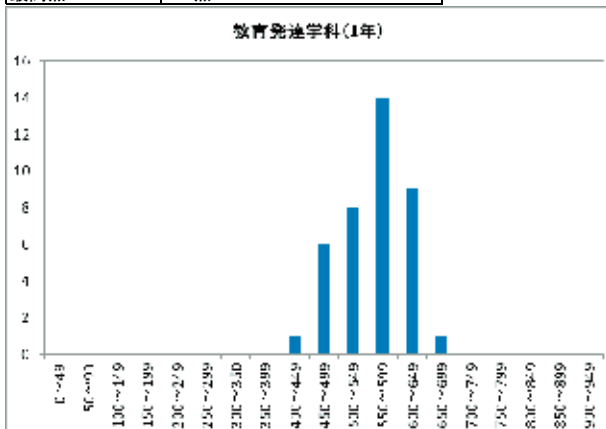
受験対象者	国語国文学科
学年	1年
受験者総数	53名
平均点	559.6点
最高点	669点



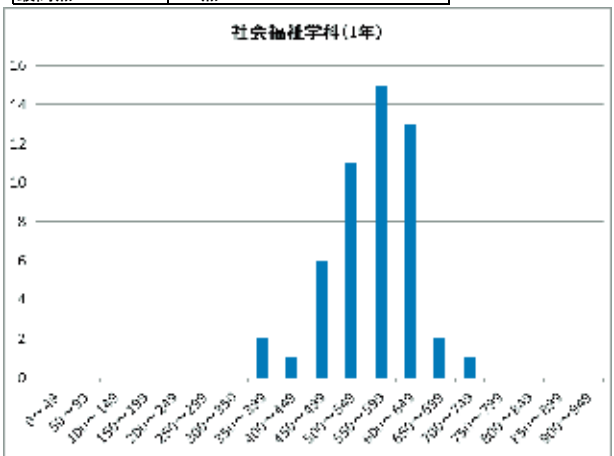
受験対象者	歴史文化学科
学年	1年
受験者総数	47名
平均点	546.7点
最高点	742点



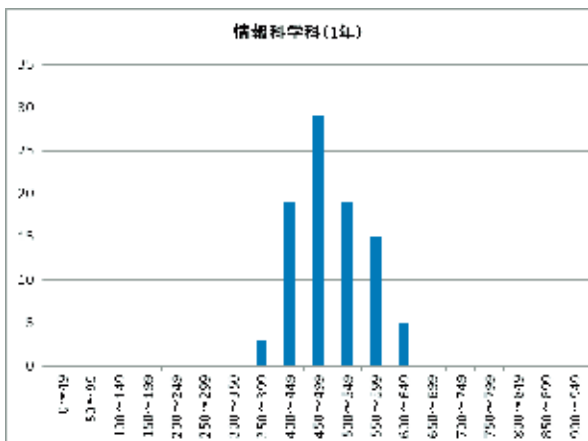
受験対象者	教育発達学科
学年	1年
受験者総数	39名
平均点	560.6点
最高点	664点



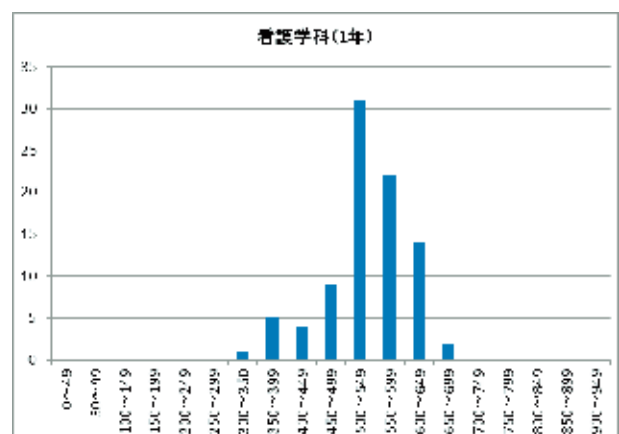
受験対象者	社会福祉学科
学年	1年
受験者総数	51名
平均点	559点
最高点	706点



受験対象者	情報科学科
学年	1年
受験者総数	90名
平均点	496.2点
最高点	646点



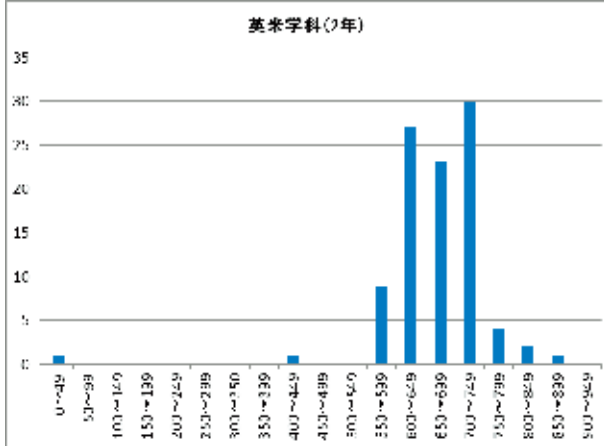
受験対象者	看護学科
学年	1年
受験者総数	88名
平均点	534.6点
最高点	661点



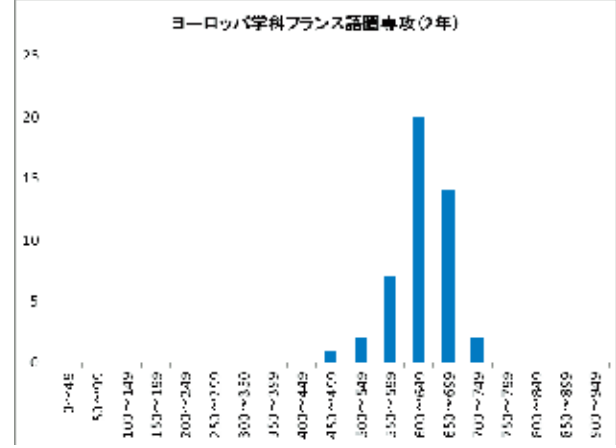
[資料2] 平成26年1月2年生英語統一テスト 結果

■愛知県立大学 2014年1月実施(2年生)

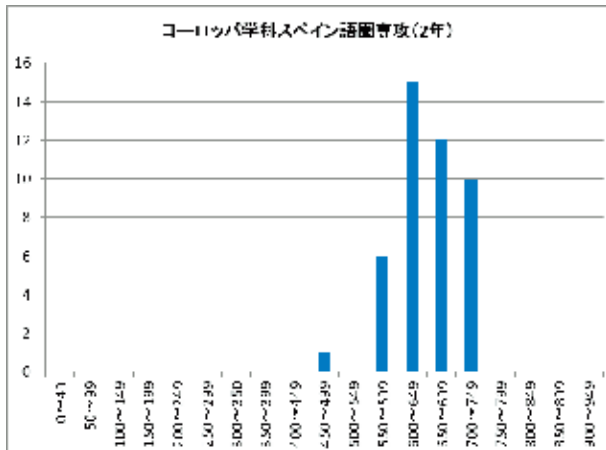
受験対象者	英米学科
学年	2年
受験者総数	98名
平均点	667.5点
最高点	854点



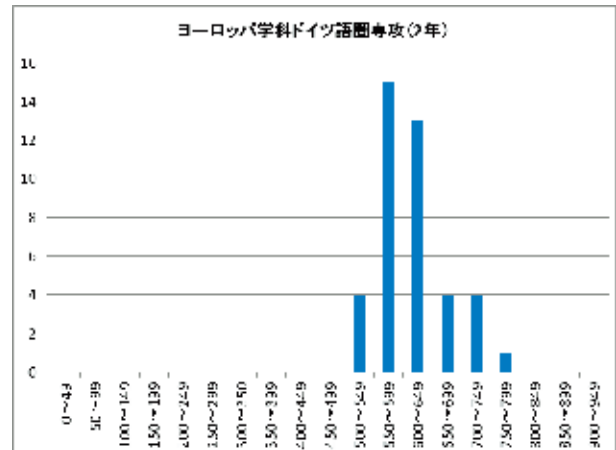
受験対象者	ヨーロッパ学科フランス語圏専攻
学年	2年
受験者総数	46名
平均点	630.2点
最高点	734点



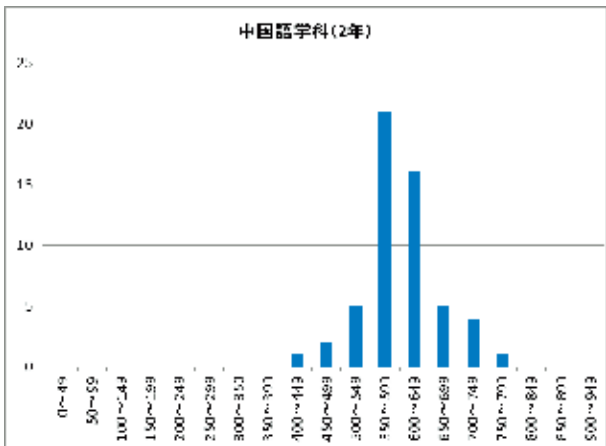
受験対象者	ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻
学年	2年
受験者総数	44名
平均点	649.8点
最高点	741点



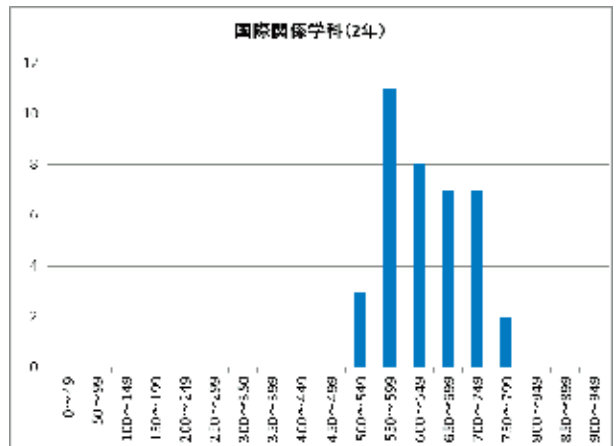
受験対象者	ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻
学年	2年
受験者総数	41名
平均点	614.3点
最高点	757点



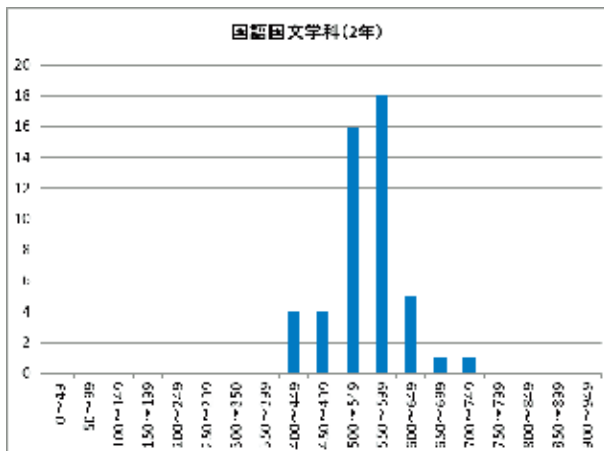
受験対象者	中国語学科
学年	2年
受験者総数	55名
平均点	599.5点
最高点	761点



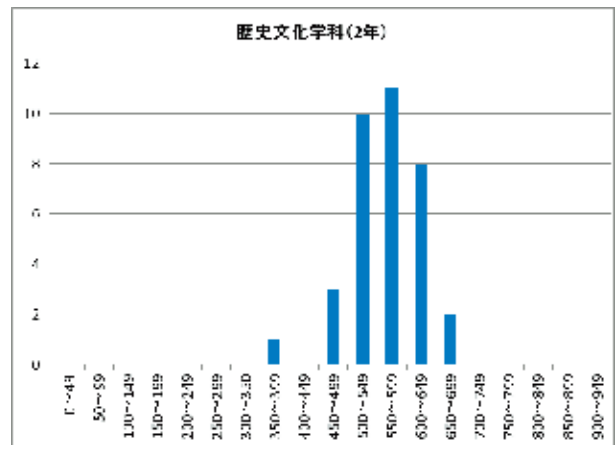
受験対象者	国際関係学科
学年	2年
受験者総数	38名
平均点	636.7点
最高点	780点



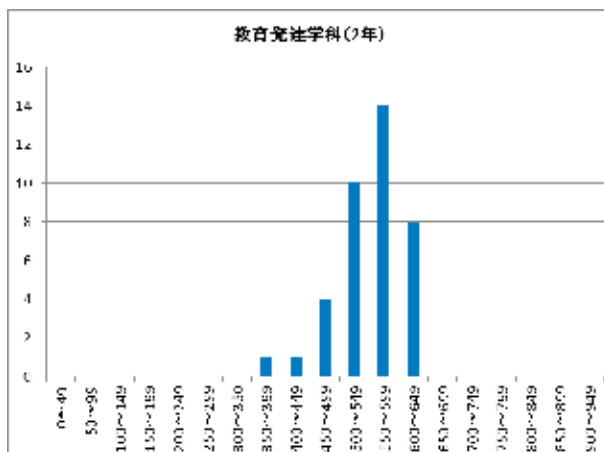
受験対象者	国語国文学科
学年	2年
受験者総数	49名
平均点	553.6点
最高点	740点



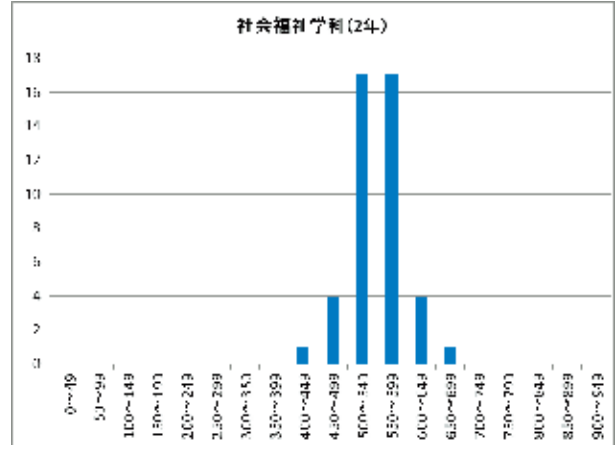
受験対象者	歴史文化学科
学年	2年
受験者総数	35名
平均点	563.9点
最高点	678点



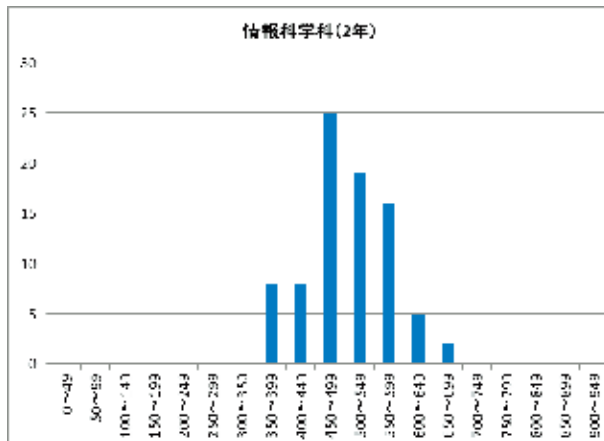
受験対象者	教育発達学科
学年	2年
受験者総数	38名
平均点	551.6点
最高点	635点



受験対象者	社会福祉学科
学年	2年
受験者総数	44名
平均点	551.7点
最高点	663点



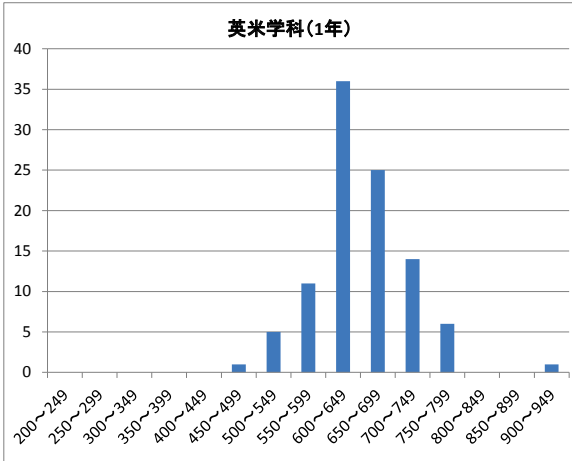
受験対象者	情報科学科
学年	2年
受験者総数	83名
平均点	506.2点
最高点	660点



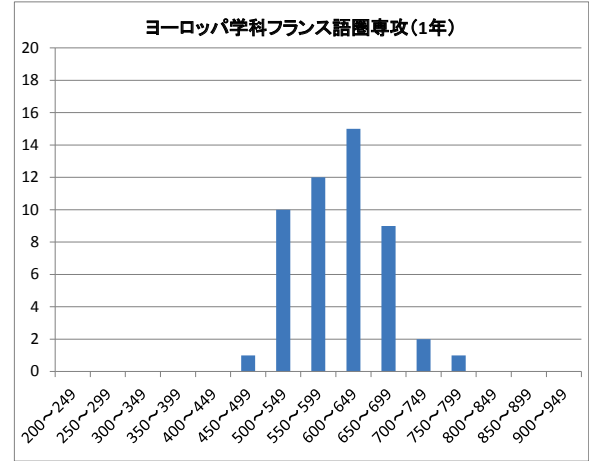
[資料3] 平成26年4月1年生英語統一テスト 結果

■愛知県立大学 2014年4月実施(1年生)

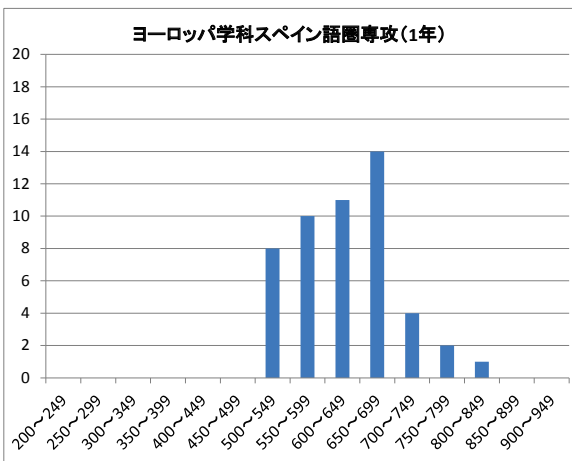
受験対象者	英米学科
学年	1年
受験者総数	99名
平均点	651.5点
最高点	920点



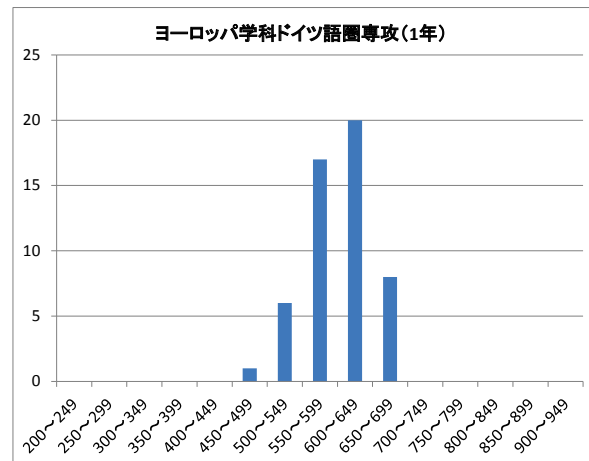
受験対象者	ヨーロッパ学科フランス語圏専攻
学年	1年
受験者総数	50名
平均点	609.4点
最高点	778点



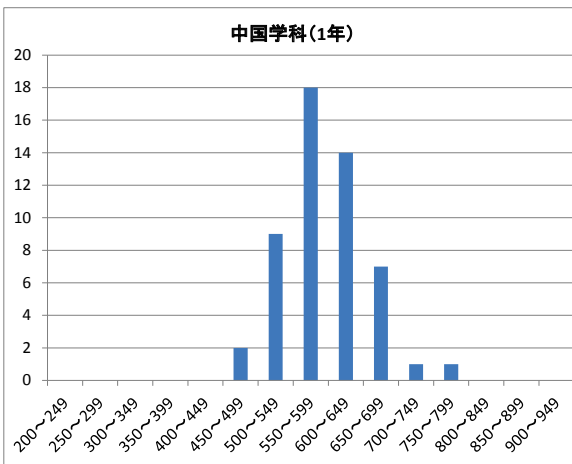
受験対象者	ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻
学年	1年
受験者総数	50名
平均点	631.2点
最高点	815点



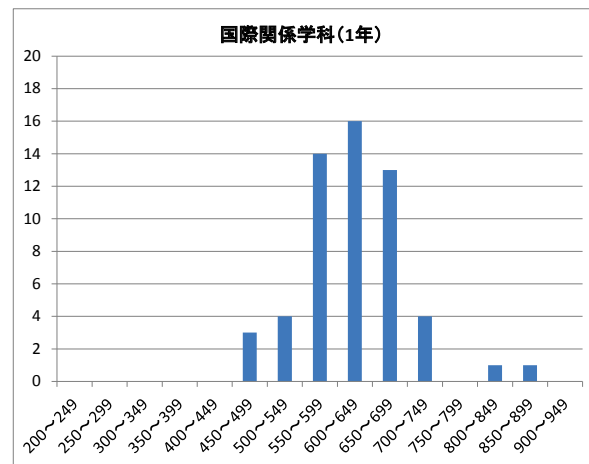
受験対象者	ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻
学年	1年
受験者総数	52名
平均点	600.8点
最高点	699点



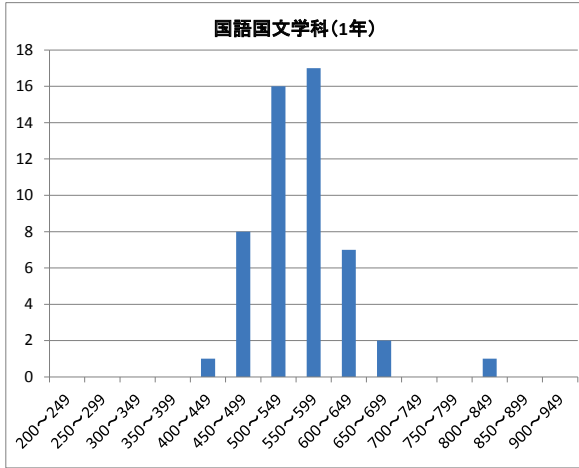
受験対象者	中国学科
学年	1年
受験者総数	52名
平均点	594.8点
最高点	772点



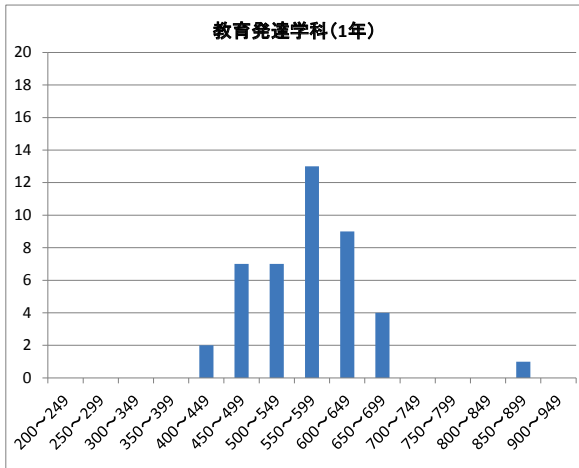
受験対象者	国際関係学科
学年	1年
受験者総数	56名
平均点	622.3点
最高点	870点



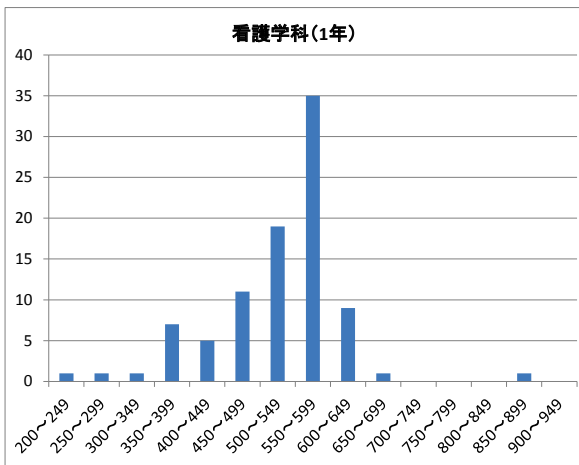
受験対象者	国語国文学科
学年	1年
受験者総数	52名
平均点	557.2点
最高点	803点



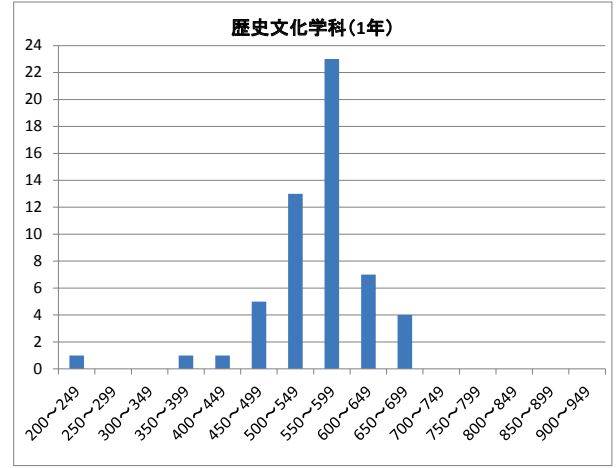
受験対象者	教育発達学科
学年	1年
受験者総数	43名
平均点	565.6点
最高点	879点



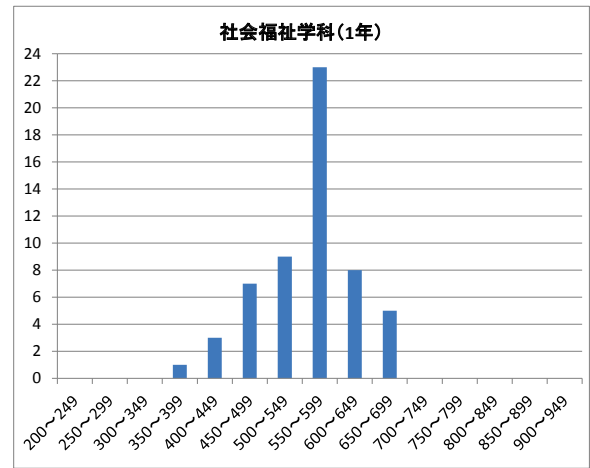
受験対象者	看護学科
学年	1年
受験者総数	91名
平均点	529.6点
最高点	881点



受験対象者	歴史文化学科
学年	1年
受験者総数	55名
平均点	554.3点
最高点	694点



受験対象者	社会福祉学科
学年	1年
受験者総数	56名
平均点	558.8点
最高点	689点



受験対象者	情報科学科
学年	1年
受験者総数	90名
平均点	484.4点
最高点	694点

